2015/05/12 NEW

経済産業省の審議会で検討してきた電源別の発電コストが11日、まとまった。政策経費の算定に使う発電電力量が先月末の想定値から見直された結果、地熱発電のコストが1キロワット時当たり19．2円から16．8～16．9円へと大幅に低下した。陸上風力と大型太陽光も若干下がった。原子力発電は2030年モデルプラントのコストが先月末の「10．1円以上」から「10．3円以上」へと0．2円上昇した。ただ全体的に安い順から原子力、火力、再生可能エネルギーと続くコスト差に変化はない。
11日の総合資源エネルギー調査会（経産相の諮問機関）発電コスト検証ワーキンググループ（WG、座長＝山地憲治・地球環境産業技術研究機構）で経産省が示した発電コストが大筋了承された。発電コスト検証WGは民主党政権時の11年のコスト試算を4年ぶりに見直す形で今年2月から検討を開始。30年の電源構成（エネルギーミックス）の検討に当たり、参考にする狙いだった。発電コストは電源構成の検討会合である総合エネ調長期エネルギー需給見通し小委員会（委員長＝坂根正弘・コマツ相談役）に報告される。（1面）

2015/04/28 NEW

電源ごとの発電コストを再検証している総合資源エネルギー調査会（経済産業相の諮問機関）の発電コスト検証ワーキンググループ（WG、座長＝山地憲治・地球環境産業技術研究機構理事・研究所長）は27日の会合で、事務局が示した各発電コストの試算結果について議論した。民主党政権が2011年に行った試算で1キロワット時当たり8．9円以上としていた原子力は、追加的安全対策費が膨らんでいることなどから、同10．1円以上に上昇した。11年の試算と比べ、全体的に初期投資の計算方法を見直し、政策経費をすべての電源に反映した。原子力の同10．1円は14年、30年における各電源モデルプラント試算の中では最も低い。
14年のモデルプラントをみると、11年の試算と比べ石炭火力は同2．8円増の同12．3円、LNG（液化天然ガス）は同3円増の13．7円。石油火力は11年試算時は同22．1～36．1円だったが、今回は同30．6～43．4円となった。
再生可能エネルギー関連では、太陽光は設備費用や運転維持費の低下などを考慮し、発電コストが低減。11年の試算で同33．4～38．3円だった住宅用太陽光は同29．4円に低下。大規模太陽光も同30．1～45．8円から同24．3円に下がった。陸上風力は11年試算時の同9．9～17．3円と比べて上昇し、同21．9円となった。

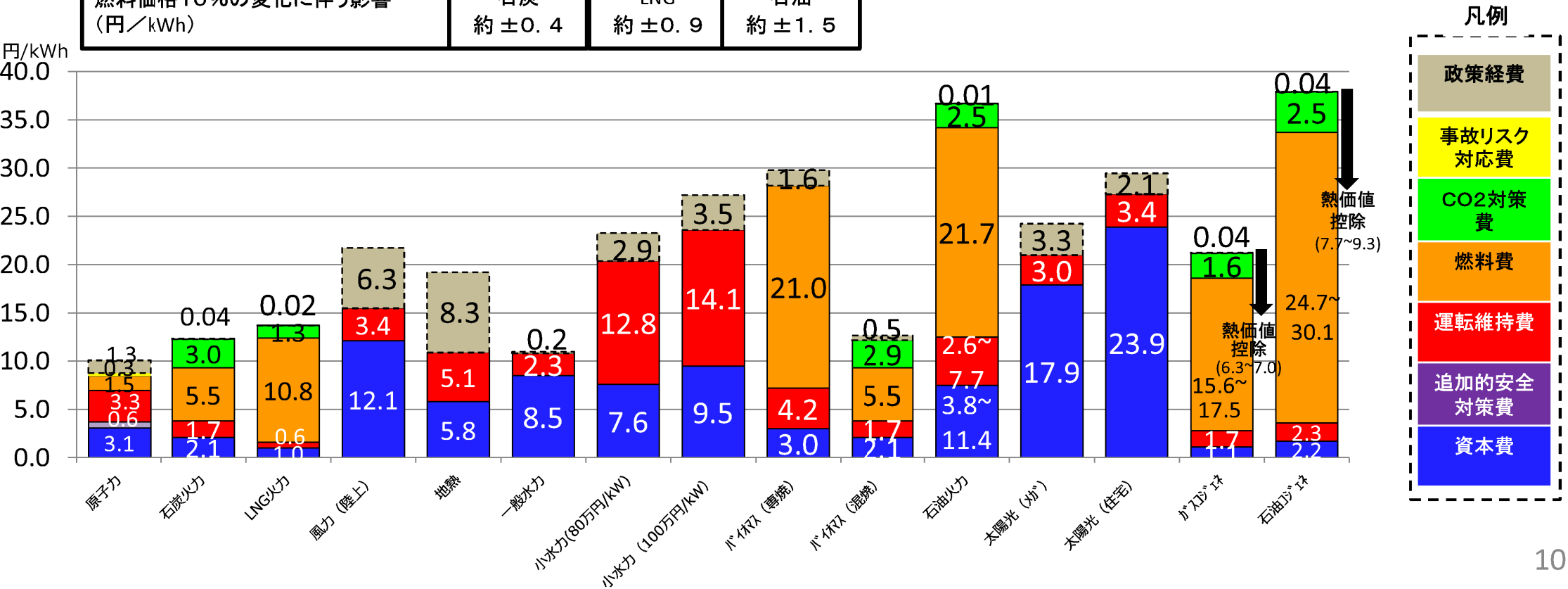
電気新聞 2015/04/28

2014年モデルプラント試算結果概要、並びに感度分析の概要（案）

電源	原子力	石炭火力	LNG火力	風力（陸上）	地熱	一般水力	小水力 80万円/kW	小水力 100万円/kW	ﾊﾞｲｵﾏｽ（専焼）	ﾊﾞｲｵﾏｽ（混焼）	石油火力	太陽光（ﾒｶﾞ）	太陽光（住宅）	ｶﾞｽｺｼﾞｪﾈ	石油ｺｼﾞｪﾈ
設備利用率 稼働年数	70% 40年	70% 40年	70% 40年	20% 20年	83% 40年	45% 40年	60% 40年	60% 40年	87% 40年	70% 40年	30･10% 40年	14% 20年	12% 20年	70% 30年	40% 30年
発電ｺｽﾄ 円/kWh	10.1～ (8.8～)	12.3 (12.2)	13.7 (13.7)	21.9 (15.6)	19.2 (10.9)	11.0 (10.8)	23.3 (20.4)	27.1 (23.6)	29.7 (28.1)	12.6 (12.2)	30.6 ～43.4 (30.6 ～43.3)	24.3 (21.0)	29.4 (27.3)	13.8 ～15.0 (13.8 ～15.0)	24.0 ～27.9 (24.0 ～27.8)
2011ｺｽﾄ等検証委	8.9～ (7.8～)	9.5 (9.5)	10.7 (10.7)	9.9～ 17.3	9.2～ 11.6	10.6 (10.5)	19.1 ～22.0	19.1 ～22.0	17.4 ～32.2	9.5 ～9.8	22.1 ～36.1 (22.1 ～36.1)	30.1～ 45.8	33.4～ 38.3	10.6 (10.6)	17.1 (17.1)

※１ 燃料価格は足元では昨年と比較して下落。それを踏まえ、感度分析を下記に示す。

※２ 2011年の設備利用率は、石炭:80%、LNG:80%、石油：50%、10%

※３ ()内の数値は政策経費を除いた発電コスト

化石燃料火力の感度分析			
燃料価格10%の変化に伴う影響 （円／kWh）	石炭 約 ±0.4	LNG 約 ±0.9	石油 約 ±1.5